特別企画

対談

# 治療から予防，歯科を包括する全身の健康へのアプローチが求められる時代における歯科教育の未来展望


**下村博文**
（衆院議員／文部科学大臣／オリンピック・パラリンピック担当大臣）

**中原悦夫**
（常任理事・編集委員長）

●日時：2015年6月24日（水）
●場所：クリニーク デュボワ

## 2020年に向けたスポーツ振興で国民の健康向上を図る

**中原**　これまでこのコーナーでは，大学教授や音楽家，女優などあえて歯科とは畑違いのゲストをお呼びして，歯科の外の視点からお話をうかがうことで，何かしらのヒントを享受させていただいていたのですが，今回はアンチエイジング歯科学会の記念すべき10周年ということで，下村文部科学大臣にご登場いただきました．

**下村**　10周年ですか．それはおめでとうございます．

**中原**　ありがとうございます．それで，下村大臣をお招きして，今回，お話をうかがうテーマですが，歯科教育の未来展望についてという王道のテーマにしたいと思っています．

**下村**　歯科医学教育は国としても重要なテーマの一つですが，なかなか難しい局面を迎えていますね．

**中原**　はい，おっしゃる通りで，歯科医療界はいま大変な変革期に突入しています．ご存知の通り，歯科医療はいま，虫歯になったら治すというところから予防へと大きく質的に転換しており，さらにわれわれとしては，もっと積極的に踏み込んで，からだ全体の健康を考えたうえでの歯科の体系を作ろうという方向に進んでいます．

**下村**　それは素晴らしいお考えですね．

**中原**　ただそれには，社会的な意識の変革，とりわけ，教育の面での改革が必要になります．全身の健康状態とのバランスというところに踏み込んでいくと，とてつもない広がりがあり，勉強しなければいけないことが膨大に出てきます．それなのに歯科大学で教えている内容は旧態依然の医科と歯科が分離した歯科治療のための歯学教育であり，予防や全身の健康状態を管理する臨床では通用しなくなってきています．そんな中で，今後の歯科医学の教育をどう形作っていくべきなのか，今日はぜひ忌憚のないお話をうかがえればと思っています．

**下村**　なるほど，わかりました．さっそくですが，いまのお話を聞いて，本題と必ずしも一致しないかもしれませんが，ちょっと感じたことがあるので，お話ししていいですか．

**中原**　どうぞ，今日はもう思うままに語っていただいて結構です．

**下村**　ご存知の通り，2020年に東京でオリンピックがありますでしょう．それで，いま2020年へ向けて，日本をスポーツ立国にしようと動いていまして，10月に発足する文部科学省の外郭であるスポーツ庁もその一つです．この主な活動は，アスリートを支援してメダルをたくさんとれるようにするという意味も当然あります．しかし，本質的な考えは別にあって，すべての国民に対して，今回のオリンピックを契機にスポーツに親しんでいただいて，健康な肉体を得て，人生を楽しく謳歌していただこうと，そういう環境を作っていきたいという狙いがあるわけです．

**中原**　スポーツを奨励するにはこれ以上ない機会です．

**下村**　その根底には，医療費の問題があります．日本は平均寿命で男女ともに世界のトップですが，健康寿命となると話は変わります．男性で9.4年，女性では13.5年，平均寿命に比べて健康寿命が短い．つまり，平均すると，亡くなるまでに10年ぐらい闘病生活をしているわけです．その費用は膨大です．80歳以上に限ると，1人当たりの医療費が平均で年間500万円かかっているという報告もあります．

### *Hakubun Shimomura*

- 昭和29年群馬県生まれ．早稲田大学教育学部卒業．平成元年東京都議会議員に初当選．自民党都連青年部長，都議会厚生文教委員会委員長などを歴任し2期7年を務め，平成8年第41回衆議院総選挙において東京11区より初当選（現在7期目）．第三次安倍内閣にて文部科学大臣，教育再生担当大臣として活躍．
- 9歳の時，父親を交通事故死で失い，経済的に苦しい生活を強いられるも，高校・大学を奨学金のおかげで卒業．この経験から，社会への恩返しをしたい気持ちが高まり，大学時代の交通遺児育英会の活動などを通じて政治家を志す．以来，「教育改革を通して日本の再構築」を実現することを目標に政治活動を続ける．

**中原**　医療費の問題は非常に深刻です．かといって，単純に減らすわけにはいきません．

**下村**　はい，国民の健康的な生活を実現するのが国の義務です．そこでいま国が力を入れているのが生活習慣病の予防です．生活習慣病の治療にかかる医療費は，年間で約3.5兆円，医療費総額の8％を占めます．そして，生活習慣病は生活習慣を変えることによって，ある程度予防できます．特に重要なのが運動です．今回のオリンピックに関連してスポーツ奨励の関連予算が提起されていますが，その額は350億円です．生活習慣病の治療にかかる費用の1/100ということになります．つまり，治療より予防のほうが断然安くつく．そして国民も健康で長生きできる．したがって，国としても，医学だけではなくスポーツや食事などを含めた予防，あるいは未病というものに重点を置く，そしてそこに医学教育，歯学教育を合わせていくという考え方が非常に重要になってきています．

**中原**　とにかく今，生活の中での身体を使う機会がありませんからね．厚生労働省の調査によると，1日当たり摂取カロリーの全国平均は一時期3,000 kcalを超えていたのに，最近は1,800 kcal台になっています．これは戦前の日本人の摂取カロリーより低いカロリーです．それなのに，メタボリックシンドロームが社会問題になっています．いかに日常で身体を動かさなくなっているかということです．

**下村**　その話に関連して気になるデータがあるんですが，女子中学生の約6人に1人が，1週間の運動時間がゼロだそうです．（2014年度「全国体力・運動能力，運動習慣等調査」，中学生女子の14.8％は1週間の運動時間0分）．中学生といえば一生でもっとも身体を動かす時期でしょう．それが授業でも体育をやっていないし，部活もやっていない．学校が終わっても外で遊ぶことはなく，家でゲームやスマホ，ネットで遊んでいる．それがいまの子供たちです．彼らが大人になったとき，いまよりもっと健康状態が悪くなっているのではないかと危機感を持っています．

## 近代食になってからすべてがおかしくなった

**中原**　そういう話をすると，思うことがあるんですが，運動しない選択をしたのは女子中学生本人かもしれないけれど，では，運動不足になったのは本人だけのせいなのか，ということに疑問があるんです．

**下村**　というと？

**中原**　スマホやゲームを作っている会社にも売っている責任があると思うんです．生活習慣病にしても，本人の生活習慣が悪いからだといってしまえばそれまでですが，突き詰めていくと，人々の足腰を使わせない過度なインフラとか，あるいは食品を提供するシステムの側に起因する

問題もあるのではないかと思えてなりません．

**下村**　たとえばどんなことですか．ちょっと詳しく話してみてください．

**中原**　たとえば，糖質の過剰摂取の問題です．摂取カロリーは増えていないのに肥満が増えている原因でもありますが，これは虫歯の根本的な問題とも共通していて，日本でもヨーロッパでも中世までは虫歯はほとんどありませんでした．それが大航海時代の三角貿易で大量の砂糖が生産されてヨーロッパ諸国に持ち込まれて，砂糖の文化ができたのと同時に，虫歯がすごい勢いで蔓延しました．これにより，それまで医療の一部であった歯科が専門領域化したわけです．

**下村**　そういわれれば，古い時代の人間の骨には歯がきれいに全部残っています．砂糖がこんなに一般化しなければ，虫歯が広まることもなかったわけですね．

**中原**　いまでも，アボリジニとかインディアン，イヌイットといった，昔ながらの生活習慣を守っている人たちは虫歯とか歯周病の罹患率はかなり低いです．近代食になってすべておかしくなりました．歯だけではなく，伝統食を食べている人たちは，生活習慣病もありません．

**下村**　自動車とかエレベーターとか，便利なものは使わないで，狩猟と採集中心の生活をしていたら，運動不足にもならないでしょうね．

**中原**　それと，やはり，甘いものを摂るか摂らないかの問題が大きいと思います．虫歯だけではなく，糖質の摂りすぎによる疾患は非常に多く，当然，肥満もその一つですし，いわゆる生活習慣病の原因にもなっています．人間にとって，本来，低血糖のほうが怖いので，血糖値を下げる機能が弱いんです．だから，糖を摂り過ぎると簡単に糖尿病になるリスクが増大します．では砂糖の摂り過ぎを問題提起しようとすると，食品メーカーや商社などから猛反発が容易に想像できます．

**下村**　だからといって，いまさら砂糖の摂取をやめるとか，制限するとかして，縄文時代や弥生時代のような食生活に戻せるかというと，それは無理がありますよね．現

状を見据えて，その中でどう工夫していくかという視点が大事だと思います．生活習慣病の原因には他にもいろいろな理由がありそうですし．

**中原**　ええ，確かに，議論の余地は大いにあります．でも，少なくとも虫歯の大きな原因になるのは事実で，食品一つとってそのことを俎上に上げようとするだけで，政治的な問題に突き当たるのが現実です．

**下村**　それについては，私にも思い当たることがないではありません．つい先日，オリンピック担当大臣の最後の仕事として，受動喫煙法の罰則規定を設けるべきだという提言を厚生労働省に持っていったのですが，たばこは政府にとっても貴重な財源だし，農家にも打撃になるというので，反対意見が根強い．もちろん，財源は重要だし，たばこ農家がどうなってもいいとはいわない．それはそれで考えていかないといけないけれど，これまでオリンピックを開催した都市では，すべてやっていることで，ここで真剣に考えないと日本だけが取り残されてしまいかねない．そういう時代の要請に合わせて政策を考えてなければいけないのに，アンタッチャブルな存在にしてしまって，思考停止になるのは政府としてもっとも避けなければならないことだと思います．

**中原**　産業の育成も重要ですが，一面では，厳しい排ガス規制があったからこそ自動車業界が大きく成長したように，規制をいたずらに怖がるのではなく，科学的な事実であるとか，社会の大きな流れに合わせてある程度コントロールしていくことも必要なのではないかと感じています．

## 予防のために病院に行くという発想の転換が必要

**中原**　ところで，先ほどおっしゃった，スポーツ庁を新設して，国民に広くスポーツに親しむ機会を提供したいということですが，それに関して私たち医療関係者に期待することは，どのようなことでしょうか．

**下村**　やはり，健康に対する知識の普及ということでしょうね．私自身の経験からとても切実に感じていることは，健康に対する知識というのは本当に幅広くて一般の国民は知らされていないことが多いということです．というのは，胃がんになって摘出手術を受けた後，半年間というもの，何がつらかったかというと食事です．胃のほとんどを切除してしまったので，食べ物が入っていかない．だけど食べないと体力が維持できないので無理に詰め込むことになり，それがとても苦しいんです．主治医に聞いたら，「食べ物を少なくとも30回ぐらい，よく噛んでから飲み込みなさい」というわけです．

**中原**　噛むことによって唾液が出て，口の中である程度消化されるから，胃の負担が減りますからね．

**下村**　だけど実際にやってみると，30回噛むのってとても大変です．これはよほど歯が丈夫でなければ噛めないなと痛感すると同時に，歯も口も胃も全部つながっていて，胃だけで消化しているわけではないんだということを初めて知ったわけです．自分で経験するまでそんなこと意識したこともありませんでした．それだけ，私たち患者は健康に対する基本的な知識さえ持っていないということであり，医療がある程度率先して積極的な健康に対するトータルなケアやアドバイスをするという時代になってもいいのではないかと感じたんです．

**中原**　それは，病気になる前にということですよね．

**下村**　そうです．病気になってから，歯が痛くなってから治療に来るのではなくて，その前の予防医学，予防治療，あるいは，未病といった考え方がとても重要だと思います．そしてそのためには，医療機関そのものが，病気になったから治療するところではなく，健康を維持するために行くところという発想に転換することが，結果的に医療費のコスト削減にもつながるし，国民一人一人がより幸せに生きていくということにつながってくるはずです．

**中原**　個人で自己防衛するのではなく，医療機関としてやっていくべきだということでしょうか？

**下村**　もちろん，あくまで私の個人的な意見ですが，健康は本人の自己責任で済ませていたら，国民の健康は守れないと思いますよ．その意味で，先ほど中原さんからも，これからの歯科は，からだ全体のバランスを考えたうえで治療なり，健康指導なりをしていかなければならないというお話がありましたが，それは非常に心強いお話だと感じています．

**中原**　はい，ありがとうございます．とはいえ，まだまだ道は遠いですが．医師だけの問題ではなく，やはり健康保険の問題もからんできます．予防のための治療をしても，現状では保険診療が認められないわけですから．

**下村**　そこはやはり政治の課題ですよね．病気になっていない段階の予防的治療は，本人の健康管理に対する捉え方の違いもありますし，エビデンスがそろっているかどうかという難しい問題はあります．だけど，ここで真剣に考えて，国として大きな方向性を示さないと，社会保障問題は解決できないでしょう．

## 幅広い知識教養をしっかり教える教育の重要性

**中原**　いま大臣がおっしゃった，健康をトータルで支える医療の確立を目指すときに，カギになるのが教育の改革ということになると思います．その点，文部科学大臣としてのお立場でどうお考えになっていますか．

**下村**　やはり，歯科も歯の治療だけやっていればいい時代ではないと思います．歯科といえども，身体全体の健

康をトータルで管理する体制が必要だし，少なくとも基本的な医療の知識を持っていないと本当の意味で患者の健康は守れません．それと，先ほどからいっている，予防のための治療，病気にならないためのサポートについても，教育機関で学ぶ必要があります．

**中原**　明治時代に医学と歯学が分かれて，100年間も別々に成長してきたわけですけど，いまはむしろ，臨床上はもうオーバーラップし始めているんですよ．おっしゃる通り，医科・歯科双方に，少なくとも基礎知識レベルの教育が必要です．6年もかけて歯科医学だけしか学んでいないと，本当に今は臨床で役に立ちません．

**下村**　時代のニーズがもう変わってきていますからね．

**中原**　もうすでに，臨床では，患者さんの半分ぐらいが治療ではなく予防で通っています．以前だと，虫歯で穴が開いてしまって，もう抜歯するしかないといった状態で治療に来るから，抜歯するしかなかったわけですが，予防のために通ってくるとなると，選択肢がいっぱい出てくるわけです．ある意味，患者さんがどういう人生を送っていきたいか，というところから掘り下げて治療方針を立てていくことが必要で，そうなると，もう医学の話というより，人生哲学とか，そういう領域の知恵が求められる．しかし現在の教育では，そういった考え方を学ぶ機会がありません．

**下村**　悪くいえば，専門のことしか知らない偏狭な人になってしまいますよね．そういう意味で，専門知識だけを教えるといういまの教育のあり方ではなく，もっと幅広い知識教養をしっかり教えていくことが必要です．

**中原**　社会に出たときの実践力とともに，人間を育てる教育ですよね．これが，高校ではまだ早いのかもしれないので，大学でやっていくことが重要だと思います．

**下村**　いやいや，高校から必要だと思いますよ．最近知ったショッキングなデータがあるんですよ．

**中原**　どんなことですか？

**下村**　学生の読書量についての調査なんですけどね，小学生は，1カ月に平均して11.4冊読んでいる．全然本を読まないという「不読率」は3.8%です．これが高校生になると1カ月の平均読書量は1.6冊まで減り，不読率は48.7%まで増える．これは危機的ですよ．これは以前からわかっていたことですが，日本は，小，中くらいまでの初等中等教育では国際的な水準でも高いレベルです．しかし，高校，大学になるとガクンと下がる．高等教育に進むほど勉強しなくなるんです．アメリカの大学生と比べると，日本の大学生の個人の学習時間は1/2というデータもあります．諸外国では，大学生になっても勉強を続けていないと卒業できないけれど，日本はそうではありません．

**中原**　そこも現在の大学教育の大きな問題ですよね．

**下村**　本来は，大学というのは，社会に出て活躍できる

人材を育てるための機関のはずなのに，現在の大学はそうなっていません．入試までは一生懸命に勉強するけれど，4年間は遊んでしまって，結局，大学を卒業しても何の力も身に付いていないということになると，教育機関の存在意義が問われるし，学生自身も社会に出て挫折してしまうことになります．

**中原**　医科大とか歯科大もそうですが，国家試験に合格させるための養成機関のようになってしまっています．

**下村**　そこが大きな問題ですよね．時代の要請に合わせて，どういう教育を国として目指していくかというのは非常に重要なテーマですが，ただ，困ったことに，現状の問題としては，文部科学省といえども，教育機関でやっている教育の内容に対して，「ああしろ」，「こうしろ」とは基本的にいえない立場です．たとえば，学部の新設にしても，生徒一人当たりの設備や教授陣などの条件が整っていればダメだとはいえません．その結果，中原先生もよくご存知だと思いますが，歯科医が増えすぎてしまいました．

**中原**　そうですね．いまは明らかに歯科医師が供給過剰です．

**下村**　歯科大学を卒業するまで国立で約600万円，私立だと3,000万円の費用が平均して必要だそうですが，それだけかけて歯科医になっても，就職先の歯科医が定員オーバーですし，既存の歯科医院も経営が非常に大変で新卒を雇うような余裕はないと聞いています．それでは困るので，歯学部の新設や生徒数を制限しようという議論が出てくると，一方で，非常に大きな抵抗に遭うわけです．たとえば，いま，文科省で推進している国立大学改革が大きな批判の的になっているのをご存知ですよね．

**中原**　はい，ニュースで見ました．

**下村**　非常に短絡的に，「文系学部を減らして理系学部を増やすのか」といわれていますが，問題はそんなことではありません．グローバル社会の中で，大学も国際競争力をつけないといけない，社会で活躍する人材を育てるための教育を強力に推進していかないといけないわけです．文学部が無用だといっているわけではなく，そこで何を学

ぶかです．シェークスピアについて深く学ぶのもいいけれど，ではそういった知識が世の中に出たときに，どれだけ生きるチカラになるでしょうか．

**中原**　問題は教育の中身ですよね．

**下村**　あるいは，音大にしても芸大にしても，卒業生の中でその道のプロになれる人はほんの一握りです．もちろん，音大も芸大も必要です．だけど，プロになれない残り99%の学生はどうするのでしょう．音大とか芸大に入れるだけですごい才能なのに，結果ほとんどの人がプロになれず家でピアノや絵画教室をやるか，学校の先生になるしかないのが現状です．でも，先生もそんなにいらないから，結局ほとんどの卒業生はせっかく学んだ専門分野が生かせない．これでは社会に対する損失です．

## 次世代に必要なのは未来への希望

**下村**　教育機関の問題はありますが，やはり大事なのは本人の意志です．希望があってその道を志したわけだし，自分が学んだ知識を使って世の中に貢献したいという気持ちがあったら，現状はどうでも，困難を克服して前進していけると思います．

**中原**　確かにそうです．大臣ご自身も育英会で大学まで行かれて，社会に生かされているということを自分で体感して，世の中に恩返しをしたいという使命感があったわけですよね．

**下村**　そうですね．やはりそういった志，夢を持つと人は頑張れると思います．オリンピックに7度出場した経験のある橋本聖子参院議員がおっしゃっていたことでとても印象に残った言葉があるんですけど，それは，「オリンピックでメダルを取った人は，100%，一人の例外もなく，将来オリンピックに出てメダルを取るという夢を子供のころから持っていた人だ」ということです．運動神経がいいとか，才能があるということもあるけれど，必要なのは夢，志なんだと．自分が強く念じていれば，どんな困難でも耐えられるから，自ずと必要な能力が備わっていくというわけです．

**中原**　はい，確かに．しかし，いまの歯科医療の世界に夢となると，どうなんでしょうか．

**下村**　それは，次世代の人たちが夢を持つような，多くの人たちに生きる勇気とか，希望を見せてくれる，ヒーローとかヒロインのような存在が必要ではないでしょうか．歯科医であれば，こんなに世の中のために活躍している，患者さんからとても感謝されている，そういう格好のいい歯科医師像を，どうやってアピールするか，存在感を示せるかということでしょう．

**中原**　私たち自身がヒーローにならないといけないんでしょうね．

**下村**　やはり大事なのは先生です．それは大学の教授などの教育者だけではなく，ある意味での指導者，人生の師といえる人のことです．歴史上，もっとも優れた教師は誰だと問われたら，私は吉田松陰だと答えます．いまちょうどNHKの大河ドラマで「花燃ゆ」を放送していますよね．そこで，野山獄のエピソードが出てきたのですが，ご存知ですか．

**中原**　密航に失敗してつかまったとき投獄されたところですよね．

**下村**　そうです．吉田松陰は，明治の偉人たちを育てたことで知られますが，なぜそんなことができたのかというと，彼は知識を教えたのではなく，門下生に希望を与えたんです．その教育のきっかけとなったのが野山獄です．

**中原**　監獄が，きっかけですか？

**下村**　監獄といっても，実は，罪人を入れておくところではないんですよ．野山獄というのは，士分階級の人たちが入る牢屋なのですが，素行の問題などで入れられた人も多かったのです．

**中原**　事情があって武士社会になじめず，はじかれた人たちなんですね．

**下村**　そうなんですよ．いってみれば，枠にはまらない人たちです．松陰もそうですけど，欧米の事情を自分の目で見たくなって，幕府に禁止されていた渡米を計画して，黒船に密航しようとしたわけです．そういう情熱を持った人なんですけど，当時の武家社会の中では，破天荒な人は疎まれます．たとえば，富永有隣も獄に入れられた一人で，あまりにも優秀すぎて高慢なところがあって，いろいろな人と衝突して結局は獄に入れられました．それから，高須久子という女性は，芸事に造詣が深くて，趣味の三味線や浄瑠璃を通して当時の人気芸能人たちと交流を持った文化人だったのですが，未亡人だったということもあって，芸能人たちと不埒な交友をしていると勘ぐられて入獄されてしまうんです．

**中原**　普通の人とは一風変わった才能のある人たちだったわけですね．だけど，武家社会に受け入れられなかった．

**下村**　彼らは罪人ではないけれど，家族の許しがないと外に出られません．実質的に刑期がなく，中には50年入っている人もいました．

**中原**　50年ですか．それは辛いですね．

**下村**　とはいえ，基本的に罪を犯したわけではないので，獄の生活はそれなりに保障されています．家族の出入りは許されるし，暇つぶしに自分の趣味のものを持ち込むこともできました．だけど，いつまで続くかわからない幽閉の日々に気力をなくしてしまっていたんです．そこにやってきたのが25歳の血気盛んな若者，吉田松陰です．彼は，獄仲間の素性を知ると，一人一人に持ちかけて，交流を

始めるんですね．松陰自身は論語の授業をする．その代わり，書の得意な人には書を教えてもらい，俳句の得意な人にはみんなのために俳句会を開いてくれとお願いした．

**中原**　身分を超えて，お互いに師となり弟子となり，学び合うという松下村塾の基本姿勢ですね．

**下村**　そうして，自分の得意なものを教え合うことで，獄に繋がれていた彼らは生きる希望を取り戻すんです．やがて，出獄が許された松陰は，この獄中の経験をもとに，松下村塾を開くわけです．松下村塾で松陰が弟子たちを指導していた期間はたった２年４カ月しかありませんでした．それでも，松陰によって自分の生きる道に気づいた弟子たちには十分な期間だったんです．必要なのは，希望だったんです．疲弊した幕藩体制から脱却し，日本の近代化を実現する希望に目覚めた志士たちは，未曾有の困難を克服して明治維新を成し遂げます．

**中原**　なるほど，大事なのは志，私たちが範となって次世代の人たちにその姿を見せればいいということなんですね．